

～受講生の方からの感想～ 〈受講全般を通して〉 22年度受講生より

＊臨床ではなかなか他病院の医療従事者と、病院のことや母子保健医療に関することなどを話すことがなかったので、グループワークなどを通じて、地域も違う、他病院の医療従事者や助産師に向けて勉強されている大学院生と意見交換ができて、様々な考え方があることを知ることができ、自分自身はもっと柔軟に考えることも必要であることも学べた。

＊日々、家事・育児に追われてその日の講義の理解もなかなか追いつかなかったり、復習などもあまりできなかつたりするが、いつでも講義などを動画で復習できること、その日の最後に小テストがあり、講義で重要な内容がよくわかった。

＊近い将来に地域での子育て支援にかかわっていきたいと思っています。その時の基礎になると思います。多くの学びや、多くの人との交流を得たことで、今まであまり接点がなかった世代、中高生、20代前半の女性などへの関心も持てるようになってきました。

＊岡山大学を中心とした、妊産婦や妊娠を望む女性を支援する先進的な取り組みについて幅広く知ることができた。

～受講生の方からの感想～ 〈グループワーク・演習など〉

＊グループワークでは様々な背景の受講生の方や大学院生の方と ZOOM を通してではありますが、お話をすることができ、今まで触れることのなかった知識や SNS の使用など一緒に学ぶことが出来たのはとても刺激になりました。

＊グループ作品は大変でしたが、メンバーと協力して調べていく中で、新しい知識を多く得ることができました。また、異なる世代と異なる経験について情報を共有することができ、とても有意義でした。メンバー間で意見調整したり、意見を尊重しあうことなど、知識以外での学びも多かったです。

＊超音波検査演習は実際にプローブを操作して画像を描出できてよかったです。継続しないと必要な画像は描出できないとは思いますが、経験できてよかったです。

＊オンラインのみでの参加でしたがエコーの取り扱い方など細かく教えていただき、知識が深めることができました。

～受講生の方からの感想～ 〈講義について〉

＊トリプルP（ポジティブ・ペアレント・プログラム）は助産師が知識を持って母親に伝えるべきだと感じました。早いうちから子どもとの前向きな関わり方を知ると、育児につまづく人が減るのではないかと思いました。赤ちゃんを産んだら母親になるのは当たり前。しかし子育てについて学ぶ機会は少ないです。母親になったら誰もがみんな学校で学ぶようにプログラムに沿って学ぶようにしたらいいという発想は目からうろこでした。

＊「ネスティング」の講義は、先生の赤ちゃんへの愛情が丁寧な所作から伝わってきました。赤ちゃんのストレス反応やストレスを与えない日常生活援助の具体例を見てこれまでの自分の行動を反省しました。今は意識して赤ちゃんのお世話をしています。生まれた赤ちゃんが手を口に持っていくことやなぜ口の位置を知っているかなど、疑問にも思っていませんでしたが、先生に言われて胎児の持っている能力に気付かされました。

＊グリーフケアの講義では死産された小さい赤ちゃん用の服を初めて作りました。職場でも先輩方が服を作ってさしあげていました。母親からは、分娩室で助産師さんが「生まれましたよ」と言って生きている子と同じように接してくれたことが嬉しかったですというコメントをいただきました。先輩のような、自然な配慮ができる助産師になりたいと思いました。その先輩もここ育プロの卒業生です。

＊子育て支援の実際を知るということで、子育て広場の訪問させていただいたことも良い学びになりました。訪問させていただいた広場のようにはいかないかもしいないが、母子が地域と関わりながら、孤立を防ぎ、安心して笑顔で幸せに過ごしていけるような場所を創る、提供できたらと思いました。